

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第818号 平成26年10月14日

母に優しい国

私は、この塾頭通信を通して、度々、我が国の少子化対策はほとんど実効性を上げていないと指摘して来ました。その理由は、出生率の改善が一向に実感出来ない事にあります。何故出生率が改善しないのかは、ある意味原因ははっきりしていて、少子化対策の現状は、女性が子どもを産み育てたいという動機付けには繋がっていないという事だと思えます。

子を産み育てるという事は大変な事だけれども、女性の皆さんが、「母親として充実した、幸せな人生を生きて行ける」、そうした希望を感じとれる社会でなければ、何時まで経っても出生率が目に見えて向上するような事はないと思っています。

「セーブ・ザ・チルドレン」が毎年公表している「お母さんにやさしい国ランキング」では、日本のお母さんの幸福度は先進7か国の中では最下位という結果が示されていますが、こうした結果を見ても、現状のままでは我が国の出生率の向上は夢のまた夢のように感じてなりません。

「セーブ・ザ・チルドレン」というのは、1919年に英国女性エグラインティン・ジェブによって創設された、子どもを支援するための国際組織で、2000年以降、毎年母の日に「母親指標（母親に優しい国ランキング）」を公表しています。

また、このランキングは、

- 1 妊産婦死亡の生涯リスク
- 2 5歳未満児の死亡率
- 3 公教育の在籍年数
- 4 国民1人あたりの所得
- 5 女性議員の割合

という5つの指標をもとに判断しているもので、178か国を対象にした今年の調査結果を見ると、

- 1位 フィンランド
- 2位 ノルウェー
- 3位 スウェーデン

と続き、日本は何と、韓国（30位）、アメリカ（31位）を下回る32位（去年は31位）で、先程も述べた様に先進7か国中最下位という厳しい状況となっています。

「セーブ・ザ・チルドレン」は、上位10か国は、概して母親と子どもの健康、教育、経済的及び政治的立場において高得点を得ていると評価しています。

一方、日本のランキングを下げている要因としては、女性議員の割合が少ない事が大きく影響している様です。女性議員の存在は、女性の社会参加がし易い国であるかどうかを見る重要な要素ですが、この点でも日本は、まだまだ女性には優しさが足りないという事だと思います。

また、「セーブ・ザ・チルドレン」は、ランキングの下位の国々に関して、これらの国の多くは武力紛争や自然災害に見舞われており、こうした国々では、国として基礎的サービスを国民に届けるという根本的な機能がまともに果たせていないと指摘しています。

こうした多くの国々が抱える困難は、放置していけばいずれブーメランのように先進諸国にも大きな影響を与えるに違いありません。その意味でも、我が国はもとより先進諸国による支援を急ぐべきだと思います。

ひるがえって我が国は、大きな経済力を持ち、安定した社会を維持しており、「母親への優しさ」ランキング下位の国々とは比較すべくもなく素晴らしい条件を備えています。それでもなお、母子家庭の貧困や不足する保育所問題等、改善すべき課題は山積しています。こうした課題を引きずったままでは、少子化に歯止めをかける事は難しいでしょう。

「母親に優しい国」が実感できない限り、どのような少子化対策も絵に描いた餅となりかねません。(塾頭：吉田 洋一)

【参考】2014「母親指標」ランキング

トップ10の国		ワースト10の国	
1	フィンランド	169	コートジボアール
2	ノルウェー	170	チャド
3	スウェーデン	171	ナイジェリア
4	アイスランド	172	シエラレオネ
5	オランダ	173	中央アフリカ共和国
6	デンマーク	174	ギニアビサウ
7	スペイン	175	マリ
8	ドイツ	175	ニジェール
9	オーストラリア	177	コンゴ民主共和国
9	ベルギー	178	ソマリア

セーブ・ザ・チルドレンの資料から作成